

御崎神社について(一)

No.389

市内本小鬻に鎮座している御崎神社の御祭神は「事代主命」で、また事代主神、八重事代主神、恵比寿大神など多くの名前を持っている託宣神である。事代主命は大国主命と神屋槌比売命との御子で、国譲り(天孫降臨)の中心をなす一柱である。

由緒については、地元の石井家が島根県から移住した時出雲大社分社の日の御崎神社から御神体を捧持して屋敷内に祀っていたのがその始まりとされている。そして、元禄十一年(一六九八)に氏神様として御崎神社が建立された。

以前、御宮はすぐ近くの日段工業会社の入り口にあったと言われ、会社入り口真向かいの民家の屋号は「宮の後ろ」と言われることからその確証が得られる。転移理由は茂原飛行場整備の為に現在地に移設されたことによる。

現在の本殿は銅板葺の流造で覆堂(雨風などから建物を保護するために屋根で建物を覆うこと)となっている。

向拝は角柱の稜角を削り取った几帳面柱とし、見事な地紋彫りが見られる。地紋彫りとは向拝柱の表面に幾何学模様を浅く彫る技術のことで、図柄模様はいろいろな文様があり、中でも代表的なものが紗綾形紋である。この文様は正面と側面の三面に施されている。紗綾形は卍を斜めに崩した連続文様でも根気のいる仕事である。

向拝中備に「目抜き龍」、木鼻には「獅子」と「象」の丸彫りが架けられている。

正面には板唐戸を付け、小壁彫刻の左右は「松に鶴の図」で飾られている。大床に高欄を設け、脇障子に「張良と黄石公の図」(前漢の張良に兵書を授ける図)を刻し、脇障子は斜めに立てた珍しい造りとなっている。この様式は滅多に見られないが、渋谷の伊弉子神社の脇障子と同じ作りである。桁隠しの木口に「鶴」などが見られ、頭貫は獅子を四方に配置し祭神を守っている。内法長押には「波に千鳥」が配され、手挟みは「波に犀」の両面彫り仕上げである。その他「力士像」や「竹に虎」、「蛇」「兎」などが随所に見られる。

茂原市文化財審議会

片岡 栄

問合せ

生涯学習課(9階)

☎(20)15559 FAX(20)16007

文芸コーナー

里山の路

勝又 政芳

里山周りの散歩路「東村へ」と刻まれた石柱の道標や道祖神が処々に視られ、徒歩で行き来した古道が窺える。その先は雑草や木々で塞がれ、山の古道に入れない。終戦後に出来た車一台通れる切通し、普通車や軽トラが行き来する。

切通しは豊かな緑に囲まれて、夏場は雑草が伸び両側を占拠する。ゆっくりと車で行く切通し、舗装された道の真ん中で、雉の親子に出会った。母鳥は振り返り車に向い仁王立ち、現代の車は音も静かだ。恐ろしいのだらうか。母鳥の迫力に圧されて、ゆるやかに車を停めた。母鳥の向こうに雛鳥が二羽、視えた。母鳥はじつとこちらを見たままだ動かない！

雛たちはよちよちと数分先に進み、山側の草むらに消えた。母鳥は踵を返し雛の後を追いつけた。我が子を守る強い母鳥の姿を観た。

世界中で戦争が起きている。里山に棲む生き物たちが平和の有難さを教えてくれた。

- 偶数月は「短歌・俳句・川柳」を、奇数月は「詩」を掲載しています。
 - 投稿は楷書でお願いします。作品・氏名(ふりがな)・電話番号を明記してください。
- ※提出先 〒297-8511 茂原市道表1番地 茂原市役所秘書広報課 宛。
詩は随時募集しており、どなたでも応募可能です。たくさんのご応募お待ちしております。
「広報もばらの詩」と朱書きしてください。原稿は30行以内でお願いします。